

平成 29 年度山口市市民活動支援センターさぼらんて事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

I 平成 29 年度さぼらんて事業背景

山口市の協働推進条例に基づいて、市民や市民活動団体が協働のまちづくりに向けて役割を果たせるように支援をする中で、下記の課題も踏まえ計画的に事業を実施。

1 市民活動支援を行う上での課題認識

平成 28 年度 山口市市民活動団体実態調査報告書より抜粋

1 調査結果概略

- 課題については、「活動を担う人材に関すること」、「資金の確保に関すること」に次いで「地域・他団体との協働・連携の取組に関すること」が多くあげられていた。
- 人材と資金の課題の他にも、協働・連携への関心も高いことが分かる。
- 「地域・他団体との協働・連携の取組に関する課題」について掘り下げると、出会いの場がないという回答が多かった。

2 求められる支援策

- 市民活動を活発にするために求められる支援施策の充実については、資金確保の支援が最も多いが、他との交流・マッチング機会の創出も多く、地域コミュニティ団体等他団体との「出会いの場」を提供することが求められている。
- 人材に関しては、運営スタッフの固定化や不足が課題と回答する団体が多かった。資金の課題とも関連して、会員数の減少により会費収入が減少していることから、市民が市民活動に参加するためのきっかけづくりや、意識啓発も重要な施策といえる。

3 その他の考察

- 市民活動を安定的に運営していくためには、法人格を取得した方が有利であると思われる。
- 市民活動支援センターの重要な支援機能として、ネットワークづくりのための交流会の実施や複数の地域・団体の連携・協働事業の企画調整が期待されており、それらのニーズに応えるソフト事業の展開が求められる。
- 行政との協働の障壁として、意思疎通が図りにくいという声があることから、より一層協働による取組をすすめていくため、行政も積極的に市民活動団体と交流していく必要がある。

市民活動団体の課題、求められる支援策について

【活動上の課題(複数回答)】

・活動上の課題としては、活動を担う人材に関する課題を重要視している団体が77.1%と最も多い。
・また、資金に関することや地域・他団体との協働・連携に関しても半数近い団体が課題と考えている。



内閣府のNPO法人の実態調査報告より抜粋

全国のNPO法人の抱える課題（図1）は、山口市の市民活動団体と同様NPO法人・認定NPO法人に関わらず「人材確保や教育」が7割を超え、一番の課題となっている。続いて、「多様な収入源」「法人の事業運営力の向上」となっている。

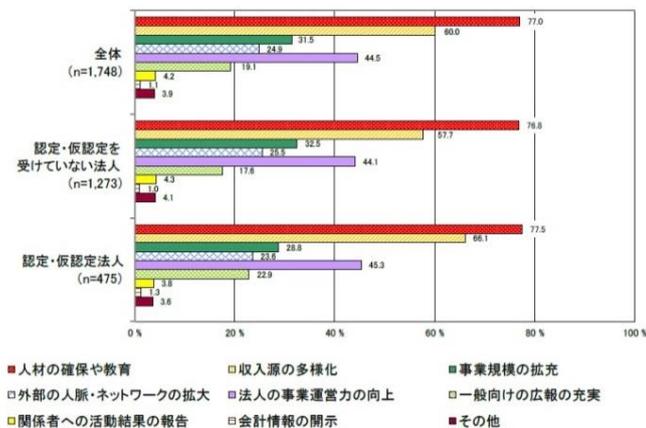
また、法人寄付の受け入れについては、NPO法人は75%が寄付金ゼロ、10万円以上の寄付が13.6%、認定NPO法人については34%が寄付金ゼロ、10万円以上の寄付が49%と認定を受けていない法人に比べて寄付合計金額が高い。個人寄付の受け入れについては、NPO法人は57.8%が寄付金額ゼロ、10万円以上の寄付が21.7%、認定NPO法人については19.8%がゼロ、10万円以上の寄付が69.6%と認定を受けていない個人に比べて寄付合計金額が高い。

情報開示について（図2）は、自身のホームページで公開している割合は、認定NPO法人69.1%、認定を受けていない法人38.4%を大きく上回る。

抱える課題について

- 認定・仮認定を受けていない法人、認定・仮認定法人の別に関わらず、課題として「人材の確保や教育」が7割を超え、最も高い割合を占めている。

【抱える課題（複数回答）】

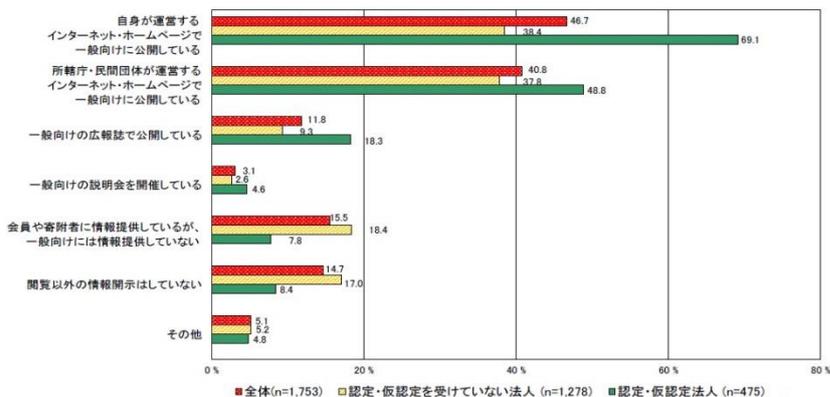


19

情報開示について

- 自身のホームページで一般に公開している割合は、認定・仮認定法人（69.1%）が、認定・仮認定を受けていない法人（38.4%）を大きく上回る。

【情報開示手段（複数回答）】



市民活動団体・NPO法人の課題

人材確保や教育、多様な財源確保に向けての体制の活動基盤の強化がすすまない。

・事業に追われ、新規の会員やボランティアの募集や、人材育成、多様な財源確保などの運営体制を整える余力がない現状がある。

・広く市民に活動を知ってもらうためのわかりやすく、共感を呼ぶ情報発信などのアプローチができていない現状がある。

今後どのように支援していくのか？

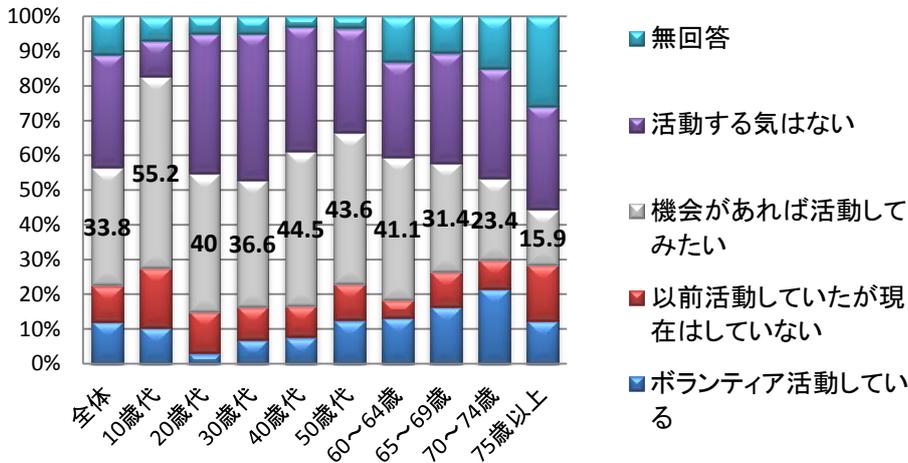
・情報発信やマネジメントセミナー、相談対応による伴走支援を実施。

協働に向けてネットワークを求める声も多いが、明確なロジックを策定し、ミッション遂行体の組織をつくり、共感を呼ぶ情報発信をしていくことが多様な主体とつながるための基本となると考えている。

市民意識の現状

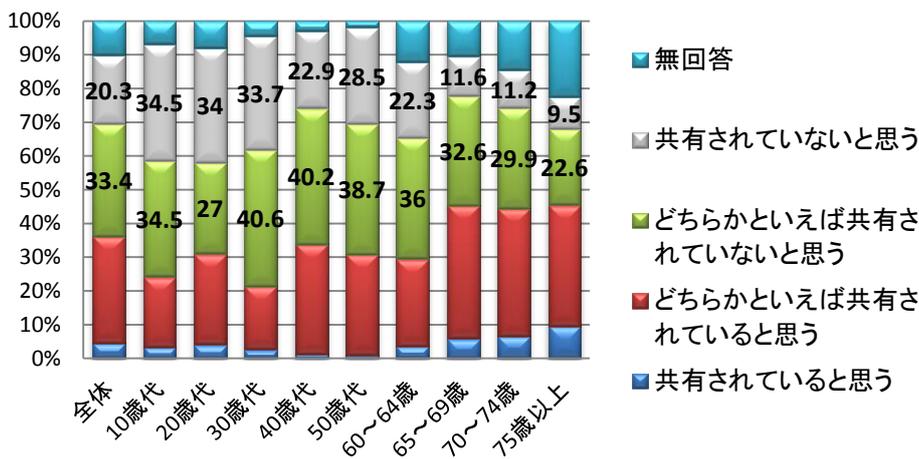
山口市まちづくりアンケートから（平成28年2月実施）

■ボランティア活動について



10歳代～64歳までの「機会があれば活動してみたい」という潜在的ボランティア希望者は、平均値を超えている。特に10歳代が55.2%、40歳代44.5%と潜在的なボランティア希望者が多い。

■地域課題について



全体的に「地域課題が共有されていない」（どちらかといえば共有されていない人含む）と思っている市民は53.7%と半数を超える。30歳代においては、「地域課題が共有されていない」と思っている人は74.3%と最も多い。10歳代～50歳代まで60%を超えている。

市民側の課題

ボランティア意欲はあるのにボランティアなど活動のきっかけがない。（特に10代、20代、40代、50代）
情報がない、忙しくてもできる活動がないなどが考えられる。

地域課題を共有する機会がない。

地域課題を話し合う場がなく、地域課題は当事者と行政の問題とされ、地域住民が共に取り組むしくみがないことが原因と考えられる。



今後どのように巻き込んでいくのか？

- ・気軽に市民活動を知る情報紙ええやん新聞の発行。
- ・団体の情報発信力の強化により、さぼらんてHPのポータルサイト機能の充実。
- ・若い世代のインターンシップの受け入れなどを通じて、市民活動や地域活動の接点を増やす。
- ・地域型、テーマ型の円卓会議を実施し、巻き込み型の事業を実施し、人材発掘・育成をする。

Ⅱ 平成 29 年度さぼらんての主な事業の分類

I の課題を踏まえて相談などの基本支援の他、以下を中心に事業を展開。

- 1 市民活動団体（NPO 法人含む）の運営力の強化（公共を担う団体育成）
- 2 若い世代の巻き込み（市民の参画促進）
- 3 課題を中心にしたつながり促進（協働推進）

1 市民活動団体（NPO 法人含む）の運営力の強化

11P-14P

（1）市民団体活動充実支援

幅広い市民活動団体に向けて「Excel 活用講座(会計編・資料編)」「チラシ講座」「写真活用講座」などの講座の他、助成金情報の発信や活動上の相談対応をしていった。

（2）NPO 支援

「ロジックモデル」「コレクティブインパクト」などマネジメントのセミナーの実施の他、NPO や NPO 法人を目指している団体へのビジョン整理などの訪問支援を 4 団体に向け 16 回実施。

「企業×NPO のつながりプロジェクト支え人。」として寄付金 178,876 円（これまでの合計 959,924 円）が集まった。

2 若い世代の巻き込み

14P-15P

（1）若者の社会貢献コーディネート事業

山口から東日本復興支援をしている市民活動団体と大学生をつなぎ、活動の意義に触れ、チャリティ活動を通じて、双方が共通の目的・目標を持ってチームとして活動できるようにコーディネート。

（2）インターンシッププログラム

山口県インターンシップ推進協議会を通じて 2 組 3 名(各 5 日間)のインターンシップを受け入れた。大学生の充実度も高く好評なプログラムとなり、今後も計画的に受け入れ、学生と市民活動をつなげる場を増やしていきたい。

3 課題を中心にしたつながり促進

16P-19P

（1）地域版コドモジカプロジェクト

平成 27 年度の市民団体の円卓会議（さぼカフェ）からスタートした「コドモジカプロジェクト」の大内地域での開催を支援。6 地域でのベ子どもの参加、大人のボランティア合せて 458 名が参加。

（2）さぼカフェ（テーマ：発達障害の理解を深める）

上記をテーマに 3 市民団体、行政担当 3 課が集まり、3 回の円卓会議を実施。その後、発達障害の特性の理解を啓発するイベントを開催し、誰もが暮らしやすいまちづくりめざす実行委員会が立ち上がり、継続して会議を重ねライトイットアップブルーのイベント（4 月 1 日～8 日開催）を準備中。

（3）地域円卓会議（テーマ：地域共生を仕掛ける中間支援者それぞれの役割と連携に向けて～）

地域共生を仕掛ける担当課と地域福祉を推進する社会福祉協議会、地域づくり協議会や NPO 法人など山口市における中間支援者が集まり、2 回の円卓会議を実施。今後も定期的に情報交換を実施予定。

（4）小鯖未来カタリバワーク

小鯖地域と連携し、おさば未来カフェの中で、「小鯖未来カタリバワーク」を 2 回実施。地域づくりの担い手の高齢化などの問題を解決し、小鯖の元気な未来に向けて、参加者のアイデアを事業企画に整理した。今後も、事業企画をブラッシュアップし、実践に向けて支援予定。

Ⅲ 委託契約に基づく事業報告（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

【基本目標】

「個性豊かで 活力のなる 自立した地域社会」に向けて

- ①市民の市民活動への参画を促進すること
- ②NPOの活動基盤の強化、NPOの自立を促進すること（公共を担う団体の育成）
- ③広くNPO・地域コミュニティ・企業・行政とのパートナーシップを図り協働によるまちづくりを推進すること

上記を基本目標に契約書・仕様書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発及び情報収集・提供機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「協働促進・ネットワーク機能」「事務局支援機能」別に以下のとおり実施。

1 施設管理

山口市中心商店街へ設置された拠点機能（ハード）を活用した支援機能（ソフト）となるため、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し、下記の対象別エリアを設定し対応。

【対象別エリア】

- 市民の自由な情報交差点（入口オープンスペース）
一般市民が自由に入館でき、情報収集しやすいレイアウトに。また、入館しない市民へも配慮し、ショーウィンドーも活用した。
- 団体の自由な活動形態を応援（会議室・2階ワークスペース・和室）
会議・講座はもちろん、専用事務所を持たない市民活動団体の作業場としても、出来る限り活動しやすい方法で柔軟に対応。
- 気軽に相談できる場（1階拠点管理事務スペース）
職員に気軽に相談できる雰囲気大切に、登録団体との情報交換や気づきの共有を心がけた。

(1) 開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

開館日数：308日

閉館日数：57日

(2) 開館時間

9：30～18：00

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は 柔軟に対応



(3) 各種手続き書類の配置

①市民活動団体向け

- 登録市民活動団体への提供サービスのしおり
- 市民活動団体登録・変更用紙
- 会議利用報告書
- ブログ反映機能申請書

- 印刷機利用カード
- 機材借用書（貸出）
- 持込みイベント申込書・報告書
- インターネット使用簿
- 窓口業務依頼申請書
- 学生ボランティア依頼書

②内部用

- 相談カード
- 機材貸出予約簿
- 拠点利用予約簿
- 日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）
- 職員業務日報

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。拠点を活用し団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。

円卓会議やコドモジカンプロジェクトなど事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともにかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

（1）市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報

団体ごとの個別ファイルを作成。

②NPO支援情報

③市外の市民活動情報

①～③の市民活動に関する情報をファイルし、閲覧できるよう整備。また、団体向けには年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

（2）広報紙等の発行

1年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかかわら版を発行し支援内容を伝える他、団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にしたい。

①さぼらんで事業情報

○さぼらんでの平成28年度の事業報告ダイジェスト版

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

○平成28年度の登録団体一覧

【対象】 登録団体

【発行部数】 350部

○さぼらんでの平成29年度の事業方針及び事業一覧

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り



○さぼらんてかわら版

さぼらんて事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

ア. さぼカフェかわら版 ～発達障害への理解を深める～

【対象】 市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 700部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

イ. 大内コドモジカンかわら版

【対象】 大内住民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 1000部

【形態】 A4サイズ 4P カラー印刷

②助成金情報

ア. さぼらんてからのおいしい助成金情報の発行

【対象】 市民活動団体向け 隔月発行（年6回）

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 両面 手刷り

イ. 助成金情報メルマガ

紙媒体では伝えていない情報も追加し、全ての情報の助成元にリンクを張り、毎月メール送信

【対象】 メルマガ登録団体および担当者 17団体 22件

③ええやん新聞

平成28年度山口市まちづくりアンケートによると、ボランティア活動（NPO活動）を行っている市民の割合は全体の12.1%と決して高くはないものの、「以前やっていた（10.5%）」「機会があればやってみたい（33.8%）」と回答した市民を合わせると44.3%で市民活動予備軍ともいえる潜在市民は半数近くいることが推測される。とりわけ「機会があればやってみたい」との回答で、20～50代が全体の65%を占めている。

『ええやん新聞』は、身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、特に子育て世代の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的としている。

年2回、幼稚園、小・中学生に全員配布、地域へも回覧するなどして30,000部発行。

【実施ポイント】

○市民活動をより身近に感じ、共感につながるよう市民広報記者による「市民目線」での発信を行った。

○市民広報記者と発行目的を常に共有しつつ、記者自身の「知りたい!」「伝えたい!」「おもしろそう!」の直感を尊重した。

○市民広報記者の研修、テーマごとの勉強会など必要に応じて行った。

○毎号1面では、テーマに沿った社会課題に取り組む「個人の思い」を発信した。

○モニター制度を導入し、読者の生の意見感想をもとにさらなる紙面の充実を図ると共に、ターゲット世代の動向の情報収集を行った。

○まちづくりや社会課題解決に向けた初めの一步のハードルを高くしないよう、市民活動だけでなく地域や個人の活動、取り組みなどもあわせて紹介した。

【対象】 市民（主に子育て世代想定） 年2回発行（9/末、2/初）

【発行部数】 16・17号 各30,000部

【配布先】 市内公立幼稚園、小・中学校、21地域交流センター、子育てひろば、一部地域回覧、

他関係各所

【形態】 タブloid判 カラー印刷

【HP発信】 PDFでホームページ上での閲覧を可能にした

【テーマ】 **16号**：特集～防災（前篇）地域とのつながりを備えよう

1P：ええやんピープル 田邊理恵さん<アレルギーっ子の会ぼれぼれ代表>

2-3P：防災と地域のかつがりについて考えよう

地域ぐるみで防災力UP in 佐山（佐山地区自主防災会）

障害のある子と家族の防災（マザーズスマイル山口）

もつたいないをありがとうに変える食品支援（NPO法人フードバンク山口）

4P：子ども向け防災プログラムレポート（大内小野自治会）

マグカップで乾パンココット

さぼらんととは、クイズ、編集後記

17号：特集～防災（後編）被災地から学ぶ～

1P：ええやんピープル 金子寿徳さん<くりす会山口>

2-3P：命ありさえすれば（山口災害救援）

女性だからできること（女性防災士）

人とのつながりを感じて（福島～山口いのちの会）

3.11 立ち止まって振り返るきっかけに（避難移住者）

自分の地区はどんな危険がある？

4P：地域レポート小鯖編

レシピ

さぼらんととは、クイズ、編集後記

【成果】

市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

16号	項目	%
	より身近に市民活動を感じた（理解・関心が高まった）	20
社会課題（特集内容）について考えるきっかけ、共感につながった	54	
情報提供を活用	11	
はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	0	
その他	15	

日頃の備えとして、自助だけでなく、共助の必要性を改めて感じたという感想が多く聞かれた。また災害弱者の存在を知り思いやる感想、家族で話し合うきっかけになったという感想があった。

17号	項目	%
	より身近に市民活動を感じた（理解・関心が高まった）	51
社会課題（特集内容）について考えるきっかけ、共感につながった	22	
情報提供を活用	8	
はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	8	
その他	11	

復興支援活動を行う団体についての賞賛や感動といった感想が多く見られた。その中で60代までの世代では「自分もなにかやってみよう」という積極的な感想が伺え、その上の世代では自分ではできないが若い世代に期待するという声が聞かれた。また、「子どもに読ませた

い」という母親の意見もあり、改めてメインターゲットである子育て世代の巻き込みの重要性が見えた。

■市民記者感想

3年目となる記者からは、自分自身の考え方や視野が広がった。新しいことに挑戦する力をもった。今年初めての記者からは、様々な分野の活動があること、その方々のか活動に対する思いに触れ毎回すごいなと感じる。自分触れた「すごい」を多くの人に知ってもらいたい。などの感想があり、ええやん新聞記者を通じて、知らず知らずのうちに自分の生き方に少しずつ蓄積・反映されている様子がうかがえる。今年度一人卒業し、入れ替わりがある。卒業していくスタッフの今後の地域での活躍が期待される。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街のちらし入れなど、広く市民の目につくところに配置。

【対 象】 市民向け 毎月発行

【発行部数】 偶数月 1050 部、奇数月 660 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

(3) ホームページのリニューアル

利便性とセキュリティ向上のため、昨年度より準備を始め 2017 年 10 月 12 日、さぼらんてのウェブサイトリニューアル。身近な困り事と市民活動のページを作るなど市民生活と市民活動という視点盛り込み、下記の利便性を高めた。

①カレンダー機能の充実

これまでの市民活動団体の情報に加え、地域づくり協議会等からの地域の行事などの情報も掲載可能に。

②助成金情報に検索機能

条件に合う助成金をみつけやすくし、助成金申請へのハードルを下げる。

③レスポンス対応

スマートフォン、タブレットなど、複数のデバイスからアクセスしやすくなった。

④アクセシビリティに配慮利便性とセキュリティ向上のトを下記に基づきリニューアルオープン。

利便性を高め、誰にとっても利用しやすいウェブサイトを目指し今後もバージョンアップをしていく。

アクセス数は、81,164 件。実人数 24,321 人。(HPリニューアルにより、カウント方法が以前と条件が違い以前との比較はできないために参考数値となる。)

①まちサポ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

登録団体（307）の基本データは全て掲載。

	H29 年度	H28 年度	H27 年度	H26 年度	H25 年度
利用団体数	307	297	301	290	293
更新団体数	52	64	53	55	41
年間記事数	1,766	1,982	1,467	1,625	1,448

(4) 情報交流コーナーの活用（「さぼらんて」前面フロア）

①市民活動紹介コーナー 団体紹介ミニポスターを作成し掲示。

②助成金コーナー 展示場所を前面に出し PR。

③NPO法人情報コーナー NPO法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更



するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。



(5) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、さぼらんてや団体の活動が新聞記事やTVニュースにも取り上げられた。

(6) 市役所ロビーにおける市民活動出張展示

さぼらんてに初めて来館した人が最初に見るのが「市民活動紹介ポスター」。写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」を日頃来館する機会の少ない市民に向けて、外部会場に展示することで、団体情報の提供および、市民活動啓発のために開催。市役所出入り口付近のパンフレットの持ち帰りが多いので「子育て」情報を設置。

結果、ええやん新聞の持ち帰り数が目立って多かった。ロビー展示で情報を得てさぼらんてで開催されているイベントを見に来られた人が数名いた。今後は、団体パンフレットの募集をかけ団体周知にも力を入れたい。また、市役所以外に出張展示の要望があれば対応していきたい。

【展示内容】

- ・ さぼらんて広報紙等(ええやん新聞、さぼらんて事業報告・事業予定、コードモジカンかわら版など)
- ・ 登録団体活動紹介ミニポスター57 団体
- ・ 団体パンフレット 20 団体

【展示場所】

開催日：平成 29 年 3 月 23 日(木)～4 月 7 日(金) (12 日間※土日除く)

場 所：山口市役所ロビー



3 相 談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数以上を占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

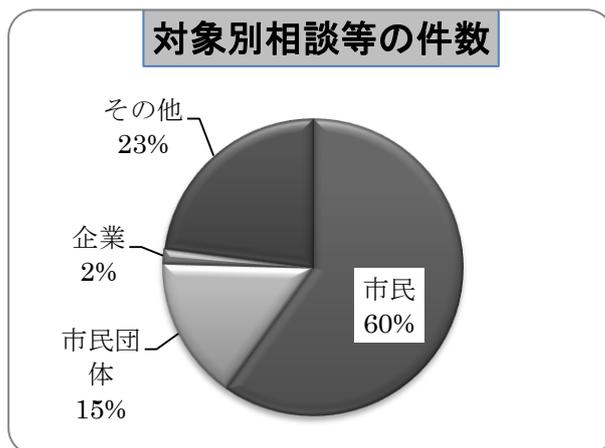
○相談件数 592件 (来所 309件、電話 283件)

○問い合わせ件数 223件 (来所 116件、電話 107件)

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は488件(グラフ集計総数)

【対象別相談内訳】

対 象	件 数
市民	292
市民団体	76
企業	8
その他	112
合 計	488

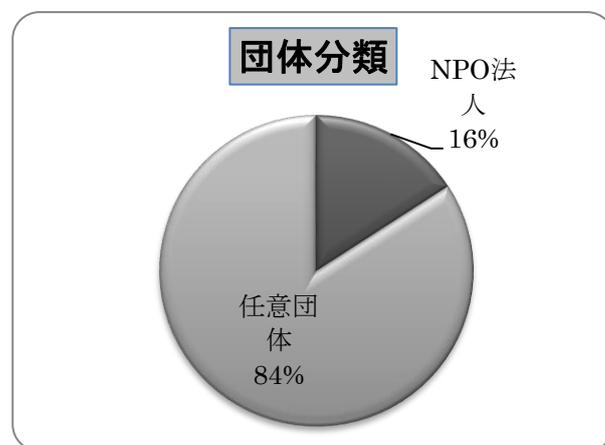


市民からの相談が60%と昨年よりさらに割合が増えている。その他の中で地域や商店街からの相談問合せ数が昨年の倍以上増えている。

【団体からの相談内容種類別内訳】

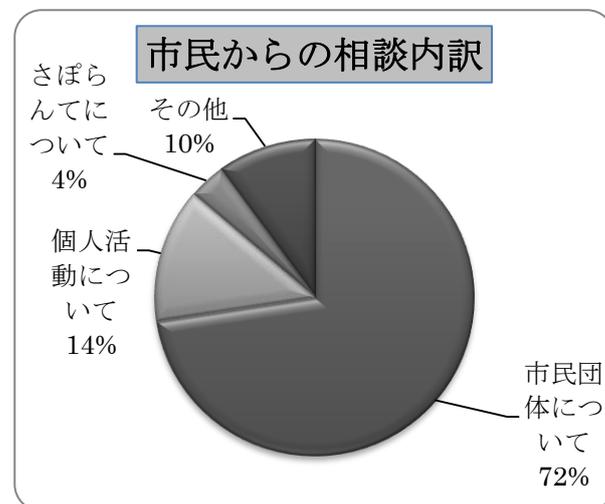
団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	3	16
	活動	13	
任意団体	運営	9	85
	活動	76	
合 計		101	101

団体からの相談は、ブログや情報発信に関するものと助成金に関する相談が多い。またHPリニューアルをした事で操作方法に関する質問も目立った。



【市民からの相談内容内訳】

内 容	件数
個人的活動について	40
さぼらんてについて	11
市民団体について	212
その他	29
合 計	292



一般市民から市民活動団体への問い合わせが7割以上を占める。中でも犬猫に関する問い合わせ・相談が152件と大半を占めている。また個人的な活動についての相談はボランティアをしてみたいという問い合わせが多く(個人的活動の相談の中の25%)さぼらんてに問い合わせればボランティア情報が得られると認識している人が多いことがうかがわれる。

(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

寄せられた相談・問い合わせ内容を一覧化し、NPO法人等対象別に相談内容を取りまとめ、分析し相談内容の予測を行うとともに、必要な情報や知識等の蓄積に努め相談対応に反映。

4 人材発掘・養成

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて、講座、研修、訪問等を行った。今年度は県の「中核的人材育成・協働推進事業」を受託し、協働に向けてのマネジメント力の強化も行った。

企業×NPOのつながりプロジェクト「支え人。」や団体訪問を通じてNPO法人の多様な財源確保・マネジメント力を支援。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

(1) 講座・セミナーの開催

① 活動充実講座

	講座・研修	日付	講師	参加者
1	市民活動に活かすエクセル講座～会計編～	10/20 10-12	武田 由佳<さぼらんでスタッフ>	4 団体 4 名
2	市民活動に活かすエクセル講座～資料編～	10/27 10-12	武田 由佳<さぼらんでスタッフ>	3 団体 3 名

※終了後も個別に団体対応

② 情報発信充実講座

	講座・研修	日付	講師	参加者
1	市民活動に活かす写真テク講座	5/16 10-12	菓子谷 梨沙氏	5 団体 12 名
2	市民活動に活かす文章テク講座	6/20 10-12	竹岡 絵美氏 (株)無限	8 団体 15 名
3	市民活動に活かすチラシテク講座 ～チラシの基本～	7/11 10-12	小柳 明子氏 (NPO法人市民プロデュース)	9 団体 11 名
4	市民活動に活かすチラシテク講座 ～チラシのピフオーアフター～	7/11 13-15		

③ 人材育成セミナー等 (※山口県受託業務)

	連続研修	日付	講師	参加者
1	中間支援者向けマネジメントセミナー	7/21 10-17	(株)PubliCo CEO 長浜洋二氏	53 名
2	地域コーディネーター養成セミナーPart 1 ～ロジックモデル概要説明～	9/23 10-17		64 名
3	地域コーディネーター養成セミナーPart 1 ～ロジックモデル策定ワーク～	9/24 10-17		66 名
4	地域コーディネーター養成セミナーPart 2 ～協働に向けてのコレクティブインパクトを学ぶ～	11/25 10-17		45 名
5	地域コーディネーター養成セミナーオプション ～多様な主体の円卓会議の手法を学ぶ～	11/26 13-16		36 名

【人材育成セミナー振り返り】

セミナーを実施するにあたり、山口市や山口市社会福祉協議会等に事業説明に伺うことにより、1においては山口市関係者（地域づくり協議会関係者を含む）の参加が20名以上あった。

今回初めて、ロジックモデル、コレクティブインパクトのセミナーを実施。市民活動だけでは社会課題の根本解決は難しいのが現状。今後は、各組織が社会的意義を明確にし、ロジックモデルを策定し、多様な主体が連携し、社会課題の根本解決に向う時代になっている。そのためのリーダーシップを担う行政や地域づくり協議会を含む中間支線のスキルアップは急務と考えている。

(2) NPOマネジメント支援

①訪問サポート（おでかけさぼらんで）

NPO法人の人材不足、資金不足の解決と、公共を担える安定した組織運営をめざし、まずは、理事・職員のマネジメント力をつけていくために、ロジックモデルや広報力などを支援。

○NPO法人へのマネジメント支援：2法人 9回

助成金申請やロジックモデル、広報力などの支援。

○任意団体への運営強化支援：2団体へ8回

主にNPO法人を目指すにあたり、ロジックモデルや事業の整理などを支援。

○地域づくり協議会への訪問支援：1回

②企業等へのPR活動

○女性創業セミナー（10/5）における「支え人。」のプレゼンテーション

○米屋町商店街へ市民活動団体との情報交換会 2回

③アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」などの推薦を行った。

(3) 企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

4年目を迎えて大きな広がりはなかったものの、それぞれNPOと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【平成28年度実績】

寄付金総額 178,876円

<NPO法人3法人に対して6社からの合計、2社については30年度分に反映予定>

4年間の寄付総額 959,924円

エントリーNPO法人：①認定NPO法人こどもステーション山口

②認定NPO法人支えてネットワーク

③NPO法人あっと

協力企業：①（株）メルシー

②Natural Therapy Bru（ナチュラルセラピーブルー）

③Original Flower Blend Tea RingLink（オリジナルフラワーブレンドティー リングリンク）

④（有）寿司やす

⑤（株）モリイケ

⑥（有）BAY TOKYO

⑦木のおもちゃ専門店 リンドヴルム

⑧ヨガルーム Bugen 華（H27新規）※寄付金贈呈は次年度より

その他の連携：寿司やすを通じた(株)向西社からの寄付

NPO法人山口せわやきネットワークへの「こどもの貧困対策連携企業」提携企業3社



【参考】【山口市のNPO法人の寄付金額別法人数等】

寄付金額	H27 年度	H26 年度	H25 年度
0	28	27	22
1～50,000	18	15	14
50,001～100,000	6	4	5
100,001～500,000	10	12	13
500,001～1,000,000	2	2	2
1,000,001 以上	4	4	5
合 計	68	64	61

※有効対象法人数

事業報告書未提出、新規認証のため提出なし、活動計算書上の経常収益ゼロの法人をのぞいた数。

H27 年度：68/83 法人

H26 年度：64/78 法人

H25 年度：61/80 法人

○全体収入にしめる寄付金収入の割合はわずか 1.0%

○寄付金収入あり 40 法人 (58.8%) そのうち寄付金額 50 万円以上 6 法人 (8.8%)。

今後も NPO の財源安定に向けて、寄付を受けられる組織づくりを行い、市民の参加の手法としての寄付を啓発していきたい。

(4) 若者の社会貢献の機会提供およびボランティアコーディネート事業

日本の若者は諸外国と比べて、自己肯定感が低く、「自分自身に満足している」者の割合は 5 割弱。特に 10 代後半から 20 代前半にかけて諸外国との差が大きい。また、社会課題への関与や社会参加についても、日本の若者の意識は 4 割強で諸外国に比べ最も低い。(2014 内閣府調べ)

背景として、他者に自分が必要とされていると実感できない、自分が人の役に立つという体験や達成感の少なさ、社会貢献教育を受ける機会や社会貢献参加の機会が少ないことが言われている。

そこで、若者ボランティアを必要とする市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れる機会と参加の場を提供するとともに、双方が共通の目的・目標をもって社会課題解決に向け活動できるようにコーディネートを行った。

日時：8月6日(15時～21時半) ※台風のため7日が中止。

場所：さぼらんて

内容：商店街のイベント山口七夕ちょうちんまつりの夜に行う、東日本復興支援のためのチャリティ屋台に大学生ボランティアの参加をコーディネート。

①オリエンテーション

団体から：被災地の現状、課題、活動のきっかけ、活動目的、内容、今後の展望などの紹介

学生から：参加の動機、団体への質問

②ボランティア内容

- ・ちょうちんの火入れ
- ・東日本支援チャリティポップコーンの販売

③参加者

りす会山口 6 名

学生ボランティア 8 名 (1 日間)

④その他協力

山口の街並を着物で歩こう会 (浴衣レンタル、着付け)

⑤チャリティ売上金額 42,400 円 (※全てをりす会の活動費へ)

実施ポイント：



- ・ イベント開始前のオリエンテーション兼食事会で団体の活動への思いを語ってもらいチームとしての交流を深め、目的を共有した。
- ・ 売上目標、や役割を分担することで作業効率を上げ、責任感を持たせた。
- ・ さぼらんでHPで活動レポートをアップし、事業報告、お礼とした。
- ・ 学生にボランティア活動証明書を発行。

成果：学生からの感想に「始めは不安や緊張もあったがやりがいを感じた」「周りのサポートがあってやりきることができた」「貴重な体験だった」などの感想が聞かれた。ボランティア内容が明確だったこと、事前のオリエンテーション等の団体側の受け入れ態勢が整っていたことが伺える。今後に向けて、団体とボランティア希望の若者のマッチング・コーディネートを行うとともに、学生インターンを中心に学生の参加・参画への道筋が見えてきた。

(5) 社会活動推進月間におけるボランティア受け入れの情報提供

山口市における市民活動や地域活動への参画を広く呼びかける「社会活動推進月間」に併せて、市民が気軽に参画の一步が踏み出せるように、ボランティア受け入れ先の情報提供を行うと共に、市民活動の啓発のため、協働推進課、社会教育課、社会福祉協議会と共にロビー展示を開催。

日時：7月1日～20日

場所：山口市役所1階ロビー

内容：さぼらんで登録団体特に気軽に参加できるボランティア募集情報、ボランティア体験者の声、さぼらんでパンフレットなどを展示。

(6) インターンシッププログラム

山口県インターンシップ推進協会を通じて2組、3名のインターンシップを受入れた。

【1回目】

日時：9月8日（月）～9月14日（月）5日

対象：山口県立大学国際文化学部 2名

【2回目】

日時：3月2日（金）～3月6日（会）5日

対象：山口大学 人文学部 人文学科 1名

【全体内容】

内容：オリエンテーション…NPO・さぼらんでについて

ワーク：寄付・社会貢献ワーク、スタッフ心得

体験：団体訪問ボランティア体験、HP入力作業、ミニポスターづくり、さぼロッテ未来カフェ参加、学生円卓会議参加、ブログ発信 等

成果：大学生の充実度も高く好評なプログラムとなった。地域貢献の在り方や自分に求められるものを深く考える機会になった様子。団体訪問先の協力体制も良く、学生の特技を活かした関わりをコーディネートしてくれた。今回インターンシップに参加した学生は、平成30年度の学生スタッフとして今後もさぼらんでとの関わりを持つこととなった。今後もこのような機会を増やしていくことが、市民活動への理解を広げることになると確信したので、もっとたくさんの学生と地域の接点を設けていきたい。

【その他の受け入れ】

日時：8月29日（火）

対象：山口市協働推進課受入のインターンシップ学生5名を受け入れ、ワークを行った。



5 協働促進・ネットワークに関する業務

山口市の第2次協働推進プランでは、「地域を思い、人々が集い鼓動する地域経営へ～共に話し合い、共に汗をかく～」をスローガンに、たくさんの人の意見を反映して地域づくりがすすむように、話し合いの場づくりを推進している。さぼらんてにおいてもこれまでの円卓会議をより積極的に展開した。

(1) 大内コドモジカンププロジェクト（2年目）

平成27年度の市民団体の円卓会議「さぼカフェ」からスタートした、「街中コドモジカンププロジェクト」を昨年度より協働推進課と調整し大内地域の3地区で実施することになった。地域の子どもを取り巻く環境には多様で深刻な社会課題があり、家庭や学校だけでは解決策が見えないものも多い現状を参加地域と共有しつつ、今年度は6地区で実施し、子どもの参加、大人のボランティア合せのべ458名が参加した。

①目的：地域の子どもを地域ぐるみで育む気運を高めながら、地域コミュニティのきずなを育て、地域の課題の解決に参画する住民を増やす。

②内容（新規4地区 継続2地区）

中村地区

日 時：7月21日（月）

場 所：大内地域交流センター

参加者：39名：子ども21名/住民スタッフ4名/中学生ボラ3名/保護者7名/講師4名

小京都地区

日 時：7月28日（金）8月5日（土）

場 所：小京都中央集会所

参加者：60名：子ども38名/住民スタッフ3名/中・大ボラ4名/保護者6名/講師9名

金成団地地区

日 時：8月21日（月）

場 所：かなり館

参加者：54名：子ども20名/住民スタッフ21名/中学生ボラ3名/講師10名

御堀×御堀団体合同地区

日 時：8月3日（木）8月7日（月）8月25日（金）

場 所：御堀団地集会所、御堀公民館、乗福寺

参加者：87名：子ども51名/住民スタッフ34名/中学生ボラ2名

氷上地区

日 時：8月1日（火）8月2日（水）8月3日（木）

場 所：氷上公民館

参加者：100名：子ども79名/住民スタッフ6名/中学生ボラ8名/保護者7名

小野地区

日 時：7月28日（金）8月9日（水）8月10日（木）

場 所：小野公民館

参加者：118名：子ども74名/住民スタッフ5名/中・高・大ボラ8名/大人ボラ17名/講師14名

③地域支援内容

○地域の自主性を活かしたプログラム内容のコーディネート

○プログラム協力団体の紹介、調整

- 開催チラシの作成
- 参加者アンケートの作成、集計
- かわら版の作成
- 振り返り会の開催（地域交流センターと協働）

④成果

- ・ 6地域で 458 名が参加。特に 3 年生、4 年生の参加が多く、学童待機問題との関係があると思われる。
- ・ 子どもの声では、楽しかったと答えた子が 9 割でその理由は「初めてのことに挑戦できた」「場所が近くですぐに来れた」「たくさん笑った」「宿題ができた」「新しい発見があった」「知っている大人がいた」「新しい友達ができた」「大人や中学生と遊べた」などが上位を占める。
- ・ 親へのアンケートでは、帰宅後子どもがコドモジカンの話しをした親子が 100%となっていて、親子のコミュニケーションにも一役果たしていることがわかる。
- ・ コドモジカン運営への参加については、「積極的に手伝ってもよい」31%、「出来る範囲で、いざれ手伝ってもよい」という条件付きの回答と併せると 82%の保護者が潜在的な担い手であることが予想される結果となった。
- ・ 新規参加の 4 地区は、いずれも保護者から手があがり実行委員会が立ち上がり実施。地域づくり協議会からも交付金があるなど、地域の中でも地域のつながりに向けては有意義なプロジェクトであることを認識され、次年度に向けても積極的に取り組む姿勢。

（2）さぼカフェ（3 回開催）

多様な団体や関係者を集めて行うさぼカフェ。今年度は、登録団体マザーズスマイル山口からの提案があり、「発達障害への理解を深める」をテーマに、毎年の発達障害の全国的イベントライトイットアップブルーを山口の関係団体とのネットワークで実施することとなった。

第 1 回 日 時：5 月 15 日（月） 10：00～12：00

場 所：さぼらんて 参加人数：14 名

参加団体：マザーズスマイル山口、山口県自閉症協会高機能部アスペの会、ハッピーママ、民生委員、協働推進課、障害福祉課、さぼらんて

内 容：自己紹介、提案理由、ワーク

第 2 回 日 時：6 月 1 日（木） 10：00～12：00

場 所：さぼらんて 参加人数：17 名

参加団体：マザーズスマイル山口、山口県自閉症協会高機能部アスペの会、ハッピーママ、NICU のびっこ、ひわだや、協働推進課、障害福祉課、山口市保健センター
さぼらんて

内 容：前回の振り返り
発達障害の理解を深めるために、2 グループに分かれてのワーク

第 3 回 日 時：6 月 22 日（木） 10：00～12：00

場 所：さぼらんて 参加人数：13 名

参加団体：マザーズスマイル山口、山口県自閉症協会高機能部アスペの会、ハッピーママ、さぼらんて

内 容：前回の振り返り



今後の方向性、実行委員会の設立に向けて

以降は、ライトイットアップブルーin山口実行委員会として独自で9回の会議を実施。さぼらんてはアドバイザーとしてスタッフが参加。4月のイベントをさぼらんてと協働で実施予定。

(3) 地域円卓会議

～地域共生を仕掛ける中間支援者それぞれの役割と連携のシステムづくりに向けて～

多様な主体が積極的に参画して運営する、お互いの力や課題を共有しながら対話を積み重ね、協働できる地域社会の実現をめざすために、円卓会議の手法を体験する。まずは、実際の場面で手法を取り入れ地域住民の対話を推進するために、山口市なりの地域共生を仕掛ける中間支援者となりえる担当者のゆるい円卓会議とその後に調整会議を開催。



【ゆるい円卓会議】

日 時：11月24日(金)13:00～16:00

場 所：山口市D会議室

参加者：センターメンバー 協働推進課（田中）

サブメンバー 社会課（石川）障害福祉課（金子）健康増進課（近藤）

大殿コミュニティ協議会（寶川）認定NPO法人支えてねネットワーク(上村)

コーディネーター：長浜洋二氏（(株)PubliCo）

話題提供：第2次協働推進プランの「地域を思い、人々が集い鼓動する地域経営へ～共に話し合い、共に汗をかく～」をスローガンに掲げ、全てのスタートを話し合いに置く考え。共生社会を仕掛ける行政においても内部の協働に向けての話し合いが行われていない現状。まずは外の風を使いながら話し合いが進むきっかけをつくりたい。

円卓概要：対話の中で感じ取るものなので、話すことが大切。

客観的尺度を持つ、事務局やマネジメント能力のあるファシリテーターが必要。

コレクティブインパクト（異なるセクターにおける様々な主体（行政・企業・NPO・財団など）が共通のゴールを掲げ、お互いの強みを出し合いながら釈迦問題の解決を目指すアプローチ）を起こすためには①達成目標②客観的証拠、根拠を共有③相互強化の取組み④継続的なコミュニケーション⑤支える組織がある、調整型のリーダーシップ。対話をしくみするための調整会議の実施。

【調整会議】

日 時：1月26日(金)9:30～12:00

場 所：さぼらんて

参加者：協働推進課（田中）社会課（石川）障害福祉課（金子）健康増進課（近藤）

社会福祉協議会（中村）さぼらんて（小田・幸徳・川上・渡邊）

確認事項： **ビジョン**誰もが安心・安全な暮らしができる山口市

ミッション地域共生に向けて、地域の主体性に寄り添える支援体制をつくる

今 後寄り添い支援体制に向けての2か月に1度の会議の開催

(4) 小鯖未来カタリバワーク

小鯖地域交流センターと地域づくり協議会が共催で若い人たちを集めた「小鯖未来カフェ」を今年度初めて実施。その中で小鯖の未来を語り合い、若い人たちの企画が実践につながるような場を設けたい

との依頼を受け実施。

1回目 おさばのカタリバ

目的：若い世代の参加者が、小鯖の将来像を共有し、できることを模索し、地域づくり協議会に新たな風を入れる。

日時：10月20日（金）19：00～21：15

場所：小鯖地域交流センター

参加者：20名（小鯖15名 その他関係者5名）

内容：小鯖のいいところ、よくないところ、将来こうなってほしいこと、こうなってほしくないことを出し合い、解決するためのアイデアを出し合った。



2回目 おさばのカタリバ ～未来のたまごのつくり方～

日時：3月4日（土）13：30～16：45

場所：小鯖地域交流センター

参加者：17名（小鯖10名 その他関係者7名）

内容：参加者それぞれが考えている小鯖を元気にするアイデアを企画書に落とし込み、似たようなアイデアの人と一緒にさらに企画をブラッシュアップし、新年度の事業として実践できるイメージを共有。

成果：少ない人数ながらも若い世代の巻き込みができ市民の潜在的な力を感じることができ、実践に向けての手応えが持てた。今後も、小鯖地域交流センターと地域づくり協議会と連携しながら参加者のアイデアの実現・継続に向けてのブラッシュアップを支援予定。



(5) 団体持ち込みイベントコーディネート

山口ちょうちん祭りの夜に、チャリティイベントに併せて、団体の持ち込みイベントを募集。3団体が参加し、団体の活動パネルを置き、バザーやゲームなどを行い、団体同士や市民との交流を深めた。

(6) その他のネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークへの環境づくりを心がけ、また、今年度は特に企業とも連携しつながりを広げた。

① 市民活動団体行事への参加

団体主催のセミナーや行事に参加し、ブログ等に紹介していった。

② 商店街との連携

- ・商店街のイベントへの協力、団体との調整、ペナント張替などに参加。また、サンデー山口にPR掲載。
- ・商店街主催の防災訓練への参加。

③ 視察等の受け入れ

県内：山陽小野田市協働推進課、岩国市協働推進課、防府市協働推進課、NPO法人救市民活動ねっと
県外：立川市協働推進課、ふくしまNPO経営ゼミ視察、長浜氏中間支援組織ヒアリング

④ 地域福祉担当者との連絡会議

今年初めて、山口市社会福祉協議会地域福祉担当との連絡会議を2回実施。

⑤ 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議】

会議名	主催	日付	場所	参加者
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	4/27	パルトピアやまぐち	2名
		3/28		1名

【審議会等】

会議名	主催	日付	場所	参加者
山口県県民活動審議会	山口県	8/29 2/15	山口県庁	各1名
チャレンジやまぐち地域貢献賞選定会議	山口県	7/7	山口県庁	1名
コミュニティビジネス応援事業助成選考審査委員会	宇部市	6/30 9/26	宇部市役所	各1名
山口県地域福祉課題提言部会	山口県社会福祉協議会	6/4 9/4 11/20	山口県社会福祉協議会	各1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○平成29年度末 登録団体数：307団体（前年度303団体）

＜NPO法人44団体、その他の法人5団体、任意団体258団体＞

新規登録団体数：8団体

解散団体数：4団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体BOX利用

要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：83団体

○印刷機材の提供

利用件数：222件

利用団体数：54団体

○会議室の提供

利用件数：300件

利用団体数：30団体

○市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：23件（延べ利用日数46日）

利用団体数：14団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：10件

③広報支援

○「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：延べ54団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：208件

<input type="checkbox"/> ワイヤレスマイク一式	13件	<input type="checkbox"/> マルチプロジェクター	41件
<input type="checkbox"/> スクリーン	34件	<input type="checkbox"/> パネル	6件
<input type="checkbox"/> イゼル	13件	<input type="checkbox"/> 長機	17件
<input type="checkbox"/> 延長コード	9件	<input type="checkbox"/> 台車	5件
<input type="checkbox"/> イス	29件	<input type="checkbox"/> ラミネーター	3件
<input type="checkbox"/> その他	38件		

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんてでは寄付やカンパを募り、東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 39,767円

寄付先 ①りす会山口

②福島～山口いのちの会

③山口災害救援

上記団体に13,000円ずつの配分

IV 運営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めるとともに、毎月の職員ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に対応できる体制を整えた。また、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○常勤 3名 非常勤 12名

2 意見聴取

「さぼらんで」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

- 市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。
- 「さぼらんでだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。
- 講座開催時の参加者アンケートによる把握。
- ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。
- 団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。
- インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識を掘り下げた。

3 定例連絡会等

「さぼらんで」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、定例連絡会を実施。事業実施におけるスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内容	担当課	さぼらんで
4/28	地域づくりへの同行支援について	2名	4名
6/5	ボランティアチャレンジ月間について	2名	4名
11/10	地域づくり支援への機能シフトについて	2名	4名
2/23	地域づくり支援の成果の共有	2名	4名
3/26	次年度事業について	2名	4名

※7月、9月、11月にかけて開催したNPOのマネジメントセミナー等に市担当職員等も共に参加し、ロジックモデルの手法などを共有した。

※協働推進課主催の地域に向けた情報発信力の講座に協力し、3月19日開催時にさぼらんでスタッフ3名が参加。

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。参加講座・研修25回、

- ①運営支援のための講座・研修 12回
- ②個別テーマやワーク支援のための講座・研修 13回

➤ 研修等一覧

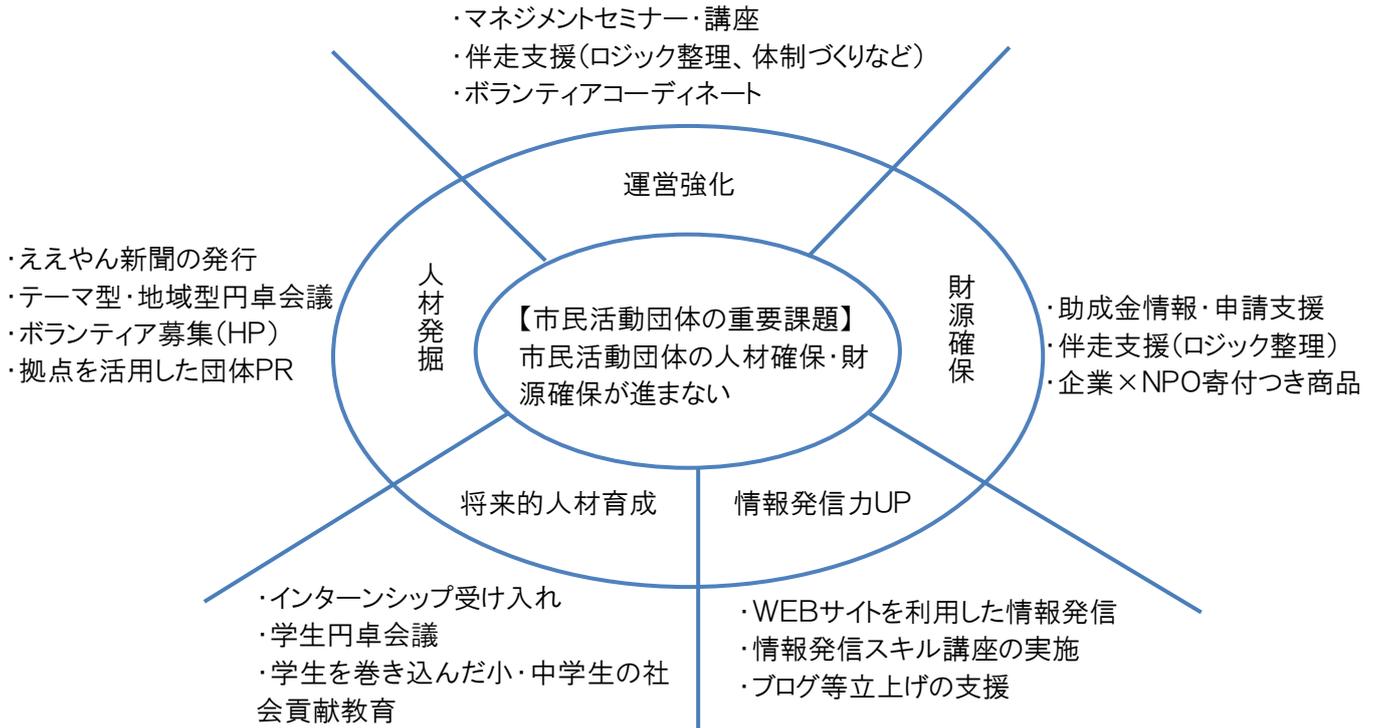
【運営支援のための研修等】

日付	講座名	主催	場所	参加者
5/16	中国 5 県事務力カンファレンス	N P O 岡山	岡山ゆうあいセンター	1 名
5/17	ソシオマネジメントスクール（小規模多機能自治の担い手の育成と支援とその基盤づくり）	llHOE	岡山ゆうあいセンター	1 名
5/17	N P O 法人みんなの集落研究所視察		みんなの集落研究所事務所	1 名
5/22	山口市ふるさと創生推進事業補助金説明会	山口市ふるさと創生部創生推進課	山口市役所	4 名
10/10	ソシオマネジメントスクール（小規模多機能自治の担い手の育成と支援とその基盤づくり）	llHOE	岡山ゆうあいセンター	1 名
10/17	きらめきジョイントフォーラム 2017	山口県	秋吉台芸術浦	2 名
10/19	ネット環境のセキュリティ	(株)モリイケ	NAC	1 名
11/6・7	自治・協働による地域づくり研修	(社)東北圏地域づくりコンソーシアム	KKR あさくら	3 名
11/11	県民活動パワーアップセミナー	山口県	朝地区複合施設	1 名
11/17	地域のための戦略会議～数える・調べる・共有する～その先へ	県センター	パルトピア	2 名
12/3	未来の担い手×LOCALマネジメントフォーラム in 山口	阿東町地福地域づくり協議会	阿東三谷ふれあいセンター	1 名
12/8	スキルアップ講座・情報交換会	県センター	パルトピア	4 名
1/19	非営利組織のための第三者評価制度説明	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア	2 名

【個別のテーマやワークの支援のための研修】

6/9	山口子育て連盟総会	山口県	セントコア山口	1 名
6/21	持続可能な地域のための打ち手を考える	NPO法人みんなの集落研究所	岡山市 陽新聞社 9 階	3 名
7/7	徳地ネットワーク研修会 わいわい話そう公共交通	とくぢネットワーク	徳地案損愛発センター	1 名
10/18	探しやすい・捨てやすいオフィスの実践ファイリング術	(株)モリイケ	NAC	4 名
10/19	プロカメラマンが教える便利なカメラテクニック	(株)モリイケ	NAC	1 名
11/28	山口市阿東・徳地地区における人口ならびに介護分析	山口市	徳地地域交流センター	1 名
11/30	山口市阿東・徳地地区における人口ならびに介護分析	山口市	阿東地域交流センター	1 名
11/30	山口市北部地区担当リーダーミーティング	山口市	小鯖地域交流センター	2 名
12/26	持続可能な開発目標(SDGs)とは？	さぼらんて	さぼらんて	1 名
2/4	長門市ちびなが商店街 13 視察	ちびなが商店街実行委員会	ルネッサ長門	2 名
2/6	ファシリテーション講座	山口市	山口市役所	1 名
2/7	うちの地区でも取り組める！地域の困りごとから始まる事業づくり	防府市市民活動支援センター	防府市市民活動支援センター	2 名
3/15	市民広報記者向け文章書き方・取材・写真撮影のコツ研修	さぼらんて	さぼらんて	5 名

V 今後に向けて



「山口市まちづくりアンケート」や内閣府の「NPO法人実態調査」「市民のボランティア意識調査」の報告などから上記を前提に支援を行った。

NPOのマネジメント力は、ノウハウもなく事業に追われる中、事業を振り返り整理する時間が取れない実態があるので今後も相談対応やマネジメントのセミナーを実施しながら伴走型の支援を実施していく。市民の巻き込みについては、ええやん新聞などカジュアルな発信ツールで知らせて続けていきたい。また平成29年度にホームページリニューアルを行いスマホでも見やすくしたのでSNSなどの発信頻度もあげ、若い世代の巻き込みを意識していきたい。平成30年度は単発の大学生インターンシップだけではなく、学生・地域ジョイントプロジェクトとして、積極的に大学生の活躍の場を設けたい。

地域にも目を向け、協働推進課に同行し地域づくり交流センターなどのニーズを把握し、「コードモジカンププロジェクト」の紹介や話し合いの場づくりの支援を模索していきたい。

平成31年度も「情報発信の充実」「NPOのマネジメント支援」「課題をテーマにした話し合いの場づくり」「若者の巻き込み」をテーマに支援力を高め、「誰もが安心して心豊かに暮らせる山口市」へ貢献していく。